

ブリテン、ドヴォルザーク、シューベルト



ブリテン

お客様のニーズに合っているか、OMURA室内合奏団に適しているか、指揮者の希望などいろいろ考えて構成します。今回の前半は弦楽器だけでの演奏です。団員からの希望でもあったブリテンのシンプルシンフォニーは、松原勝也さんの弾き振り、つまり指揮者なしで演奏しますが、この曲は、去る2月の武雄公演で、ニューヨーク生まれで、ホルショフスキ・トリオのヴァイオリニスト、ジェシー・ミルズの弾き振りで演奏しました。ドヴォルザークの弦楽セレナーデは、アルカス佐世保で、松原さんの弾き振りで演奏したことがあります。

来る5月29日（長崎）30日（大村）で公演するOMURA室内合奏団のプログラムは、今回大変ユニークだと思いませんか？

イギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテン、チェコのアントニン・ドヴォルザーク、そして、オーストリアのフランツ・シューベルトの組み合わせです。

1913年生まれのブリテンは20世紀イギリス最大の作曲家、1841年生まれのドヴォルザークはチェコ国民楽派最大の作曲家、1797年生まれのシューベルトはロマン派音楽の開拓者というより、歌曲の王様として知られていますね。以前にも述



ドヴォルザーク



シューベルト

今回は、チェコで活躍していられる武藤英明氏の指揮での演奏ですから、チェコの香りを充分に運んでくださることでしょう。シューベルトの5番は武藤氏のチョイスでした。私としては、有名な「未完成交響曲」だとお客様に喜ばれるのでは、と思ったのですが、アーティスティック・アドバイサーの松原さんから、OMURA室内合奏団には5番か6番が良いのではとのことでした。結果、指揮者の希望で5番になりました。

武藤氏には以前、「新世界より」を振っていただいたこともあり、OMURAとは2回目ですので、長崎県出身の指揮者と長崎県を代表するOMURA室内合奏団の息の合ったコンサートをお聴きのがしなさいませんように。ご来場お待ちいたしております。

べたことがあります、プログラミング、つまりいかにしてプログラムを決めるかということですが、これには知恵を絞ります。

芸術監督 村嶋 寿深子

美容と心 それは？

女性が最も美しい表情をしている時——「それは、
我が子に授乳している時の母親の顔」

では、女性が最も真剣な表情をしている時——「それは鏡に向かって化粧をしている時」

そして、男女とも最も良い表情をしている時——

「そう、良い音楽を聴いている時」…… という様な
話を耳にした事がある。この話には説得力がありそう
だ。授乳している顔や、化粧している女性の顔をジック
リ観察した経験はないが、何となく想像はつく。

それに、いい音楽を聴いている人の顔の表情が良い
のだけはハッキリと分かる。凶悪犯罪者や、悪巧みを
する人間等とは明らかに違う表情だ。専門家に聞くと、
これは体内のホルモンの作用に依るものらしい。

「アドレナリン」が交感神経に働くと興奮し、脈拍・
呼吸も速くなり、血圧も上昇する。反対に「アセチルコ
リン」が副交感神経に働くとリラックスし、脈拍・呼吸
も遅くなり、当然、血圧も低下する。すると「アドレナリン」
は不要で「アセチルコリン」だけあれば良いのでは?
と思いたくなるのだが、そうではないらしい。専門
家は次のような例を挙げた—— 「猛犬の前にポン
と置かれた猫」=すると猫は極度の緊張状態に入る
(戦闘地域に立たされた人間と考える事も出来る)
生存に関わる訳であるから、血圧も脈拍数も限界点辺
りまで上昇し、毛は逆立ち、耳を伏せ、戦闘態勢に入る。



勿論「アドレナリン」の作用に依ってもたらされた結果
だ。

これは短時間であっても多大なストレスを猫に及ぼす。次に「お年寄りが満腹状態での昼下がり、日当たり
のよい 縁（最近の住宅では少なくなったが）で居眠り
を始めた状態」=血圧も下がり、呼吸・脈拍数も少なく、
唾液腺は緩む。すると、涎を垂らし、酸素消費も少量
で済むため、気道は狭まりイビキをかき始める。これ
は勿論「アセチルコリン」の作用だ。この時は思考停止
状態もある。多くの事柄に反応しないのであるから、
ストレスにはならないが、こうした状態の継続は、極論
をすると「認知症」に近い状態もあるという。

またこう言う例えも、「人間の内面はゴムに似ている。
緩み過ぎたゴムも、張ったままのゴムも使用には適さない。
緊張と弛緩とその両方が担保されてはじめてゴム
の用を為す」と。

電子楽器を駆使し、PAシステムの音量を最大限に
上げた「○○野外コンサート」等は、何万人という聴衆
を大いに興奮させる。きっと「アドレナリン」を大量消
費するに違いない。ではオーケストラ演奏会——
名曲と言われる作品は聴く人々を時に興奮させ、時に
リラックスさせバランスを巧みにてくれる。「アドレ
ナリン」と「アセチルコリン」の調和を内面にもたらして
くれる名曲—— 心の美容を担保する、オーケストラ
はその保証人なのである。さあコンサートへどうぞ!!

武藤英明（指揮者）

編集委員による定期演奏会のポイント！



太田さおり（ヴァイオリン）



池田祐希（ファゴット）

今年もわたし達がパトロネージュ通信の編集委員を務めます！
どうぞよろしくお願い致します♪



1. 指揮者は武藤英明氏！

OMURA室内合奏団とは2度目の共演！チェコで
ご活躍の武藤さんには前回に続きドヴォルザーク
の作品などを指揮して頂きます。生まれ故郷・長崎
でのパフォーマンス、とても楽しみですね！



3. 前半は弦楽器の響きをたっぷり♪

前半は弦楽器のみのステージ！ブリテンは松原さんの
弾き振りで♪続いてドヴォルザークの弦セレ♪より
武藤さんの登場！この曲、定期演奏会で弾いて
みたかった曲でもあります♪



4. 後半は管楽器も加わり、彩りもUP!!

なかなか生では聴く機会のないシューベルトの交
響曲5番。シューベルトの初期の交響曲の中では、
最も人気のある作品といっても過言ではない作品
なんですよ♪武藤さんの指揮のもと、どのような音
が聴こえてくるかどうぞお楽しみに♪♪



5. 開演前にも実はお楽しみが♡

開場後もなくすると、団員有志によるロビーコン
サートがあります♪演奏しているすぐ目の前で、奏
者の息使いなどを感じながらお楽しみ頂けるロビコ
ン♡こちらも必見です！



今回はコンサートマスターに松原勝也さん（東京藝術
大学教授）、ヴィオラトップに柳瀬省太さん（読売日本交響
楽団ソロ・ヴィオラ奏者）をお迎えします。2009年11月
の定期演奏会ではこのお二方にモーツアルトの「ヴァ
イオリンとヴィオラの為の協奏交響曲」を演奏して頂き
ました。素敵だったなあ……。こんな素晴らしいお二方と
一緒にできて大変幸せです!!

おいしいお料理と音楽をどうぞ

毎月開催されている『ホテル日航ハウステンボス』でのコンサート。

昨年までは夜公演のロビーコンサートでしたが、今年1月からは「OMURA 室内合奏団 in ラヴァンドル」として、ランチタイムのコンサートとなりました。

ラヴァンドルはレストランの名前。おいしいお料理の香りに包まれての演奏です。弦楽四重奏の響きの合間に、私のお腹はついつい「ギューッ」と鳴いておりました。30分ほどのコンサートでしたが、お客様はお食事とともに私たちの演奏も熱心にお聴きくださって、たくさんの拍手もいただきました。景色がきれいで開放的な雰囲気のレストランでの演奏は、幸せなひとときでした。

そして、夜のホテルロビーの落ち着いた雰囲気もとても素敵なので、4月は久しぶりにロビーコンサートとして演奏させていただきました。

お客様は遠方からの方が多く、お一人お一人がとても熱



心に聴いてくださって、4名のお客様に、ヴァイオリンの楽器体験に参加していただきました。皆さんこれから優しく柔らかな音色で弾いておられましたよ。決して「ギコギコ」ではなく。楽器体験を通してヴァイオリンを好きになっていただけたら嬉しいです。



前田純美加（ヴァイオリン）

メンバー手作りのコンサート

去る3月15日にOMURA室内合奏団室内楽シリーズvol.1を開催しました。今回のコンサートは定期演奏会やその他の依頼公演とは違い、団員自ら発案し、運営するという、今までの合奏団の形にはなかったものでした。ですのでコンサートに行くとびっくり。普段演奏しているメンバーが、受付でチケット販売をやってたりしました。

プログラムとしてはモーツアルト：弦楽四重奏曲「春」、ベートーヴェン：弦楽四重奏曲作品18-1、そしてわれらが松原勝也氏編曲によります、バッハ：ゴルトベルク変奏曲弦楽五重奏版というものでした。活水大学チャペルの雰囲気も相まって、とても素敵なコンサートになりました。

聴き逃してしまったという皆さん、ご安心ください。この間のはvol.1です。もちろんvol.2もあります。8月30日の予定です。室内楽シリーズ、ぜひ聴きに来てくださいね!



亀子政孝（コントラバス）

♪ クラシック音楽

「また眠ってたわよ」と、音楽会で、隣に座っていた私の友人はあきれ顔でよく言っていた。OMURA室内合奏団の公演には、結成された当初から友人と一緒に、いそいそと出かけた。しかし、私自身がクラシック音楽へ傾倒していたというのとは程遠い。会場で聴きながら、早く終わらないかなあと想うことでもあった。数年前にそのことを初めて口にしたら館長の村嶋寿深子さんが驚いていた。楽器のできる友人たちもそれを聞いて困り顔で、取り繕うのに間が持たなかった。

私の中での芸術では『美術』の領域が大きい。諸事情で教員になったものの、若い頃の憧れの職業はグラフィックデザイナーだった。音楽に感動してもその思いを口にしようとしたら空疎な言葉しか出てこない。そういう私が、もう人生が終わり頃にさしかかっているのに、突然チェロを練習したくなった。指導して下さる光田聰子先生から「どうしてチェロを始めることに?」と質問されたが、自分でもきちんと答えられなかった。

車の運転中には、大体音楽

を流す。クラシックではド

ヴォルザークのチェロ協奏

曲をよく聴いた。三年前、東

日本大震災があつてすぐ位にテレビをつけると、チェロの堤剛

の演奏会が始まろうとしていた。震災後のすべての日本人が

そうであったように、彼も全身に深い思いをためて、チェロ協

奏曲を奏でた。それは人を大きく慈しむように哀しみをたた

えて流れていった。

岩崎はるみ
(チェロ・ピア チェーレ)

私のチェロは初めてから二年を過ぎて少しずつ上達しているらしい。自分ではその音色の拙さに気を落とすばかりである。チェロを続けられているのは光田先生やレッスン生で作っているピア チェーレの仲間のおかげである。この音楽時間は私がこれまでに知らなかつた世界を与えてくれている。



修爾くんのイタリア便り (4)

皆様お元気ですか？寝不足のヴァイオリン藤木です。長崎はすっかり暖かくなつたそうで、心地よくお過ごしのことと思います、こちらもとても暖かになりますます勉学に励むことが出来るようになりました。

さて、今回報告致したいのは、3月末に催されたコンサートについてですが、運良く抜擢され、ソリストを勤めて参りました。その曲目なのですが、Raffaele Gervasio (1910~1994) 作曲、ヴァイオリンとギター及び弦楽オーケストラの為の協奏曲(1984)でした。

実はこの曲一つだけ録音があるのみで、公開演奏としては世界初でした。

写真はそのリハーサル風景です。



ご支援ありがとうございます (4月30日) 法人会員数 66件 (-3件) NPOは、会員皆様の会費が主な収入源です。
現在 個人会員数 198人 (-11人) 周りの方で、興味のある方がいたら、ぜひお誘い下さい。

編集後記

春になり ぶかぶかの園服を着た
子供たちをよく見かけます☆
可愛すぎです!!心がほっこり和み
ます(*^.^*) (さあり)

ずっと行きたいと思っている場所があります。それは
山口県の角島大橋!海がキレイで、何とも言えぬ美しさ
なんです。どなたか行かれた方はお話を聞かせてく
ださい!今年こそは行きたいなあ♪ (いけっち)

先日プッチーニの名作オペラ「トゥーランドット」の“誰も寝てはな
らぬ”ばかりが24曲入ったCDを頂きました。歌手の歌声が違う
のはもちろん、オケの音色、空気感全てが違うのでおもしろかっ
たです。1927年の録音も入っているのに感激しました。(みき)